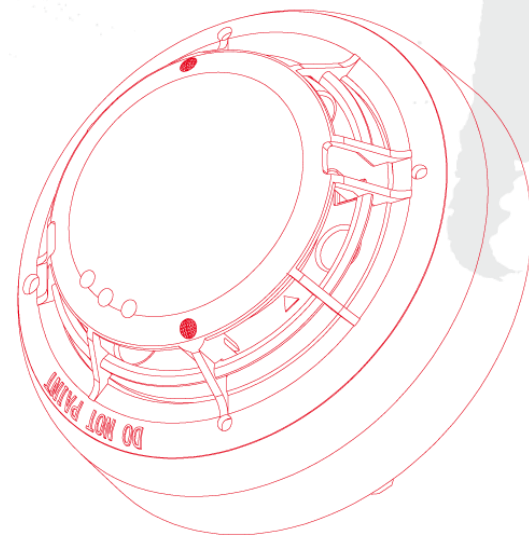


会社説明会

ホーチキ株式会社（証券コード6745）

 **HOCHIKI**



- P.3 基本情報
- P.12 HOCHIKIグループを取り巻く事業環境
- P.17 グループ事業基盤
- P.22 グループ成長戦略
- P.29 配当方針



基本情報



研究開発、製造から販売、設計・施工、メンテナンス、リニューアル、コンサルティングに至るまで、一貫して火災防災ソリューションを提供

経営理念

人々に安全を

災害の防止をとおして人命と財産の保護に貢献する。

社会に価値を

社会に価値ある商品とサービスを供給する。

企業をとりまく人々に幸福を

従業員と株主、協力者および地域社会の人々に豊かな生活と生き甲斐のある場を提供する。



住宅用火災警報器



フラット型表示灯発信機

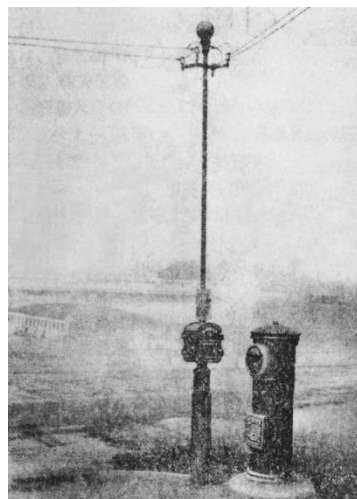


小規模放水銃



会社案内動画（ショート版 3:40）
<https://www.hochiki.co.jp/whats/douga/>

時代の要請に応え、 火災防災を通して 社会に貢献する



日本初の街路発信機



日本初の受信機



日本初の火災報知機

1918年（大正7年）

東京市（現東京都）を火災から守る為、当時の警視庁が火災報知設備の設置を計画。主に損害保険会社の出資により、日本初の火災報知機メーカーとして誕生。

1921年（大正10年）

皇居内にMM式火災報知機を設置。

1920年（大正9年）

日本初の火災報知機であるMM式火災報知機を日本橋に設置。

1925年（大正14年）

新国会議事堂に火災報知機設置が決定。

1960年代	1961年	タイへ初の輸出
1970年代	1972年	東京証券取引所市場第1部に指定替え 商号をホーチキ株式会社に変更 米国に100%子会社ホーチキアメリカコーポレーション設立
1990年代	1991年	英国に100%子会社ホーチキヨーロッパ (U.K.) リミテッド設立
	1995年	宮城県角田市 (宮城工場に併設) に世界最大規模の総合防災実験場を建設
2000年代	2012年	オーストラリアに100%子会社ホーチキオーストラリアPTYリミテッド設立
	2012年	ケンテックエレクトロニクスリミテッド買収
	2014年	シンガポールにホーチキアジアパシフィックPTEリミテッド設立
	2018年	水戸ホーチキ株式会社を連結子会社化

21/3月期

76,567百万円

連結売上高推移 ●

感知器 (センサー)



2010年

国内初無線式自動火災報知設備「Air Series」の販売を開始



2016年

煙、熱、一酸化炭素を検出、非火災報低減機能付の海外向けマルチセンサーの販売を開始



2020年

高さ・直径ともに当社現行品比40%以上コンパクト化し、設置空間に馴染む新型熱感知器の販売開始

受信機 (パネル)



2003年

業界初大型カラー液晶ディスプレイ搭載のGR型防災受信機「HRN」の販売を開始



2016年

海外向け新型受信機「Taktis/L@titude」の販売を開始

放水銃システム



1988年

大規模放水銃システム第一号をドーム球場に納入



2015年

小規模アトリウムなどの防災に最適な小規模放水銃Ⅱプラスシステムの販売を開始

情報通信事業等 16.9%

防犯設備

- ・ 入退室管理システム
- ・ 鍵管理システム
- ・ 電気錠制御システム 等



情報通信設備

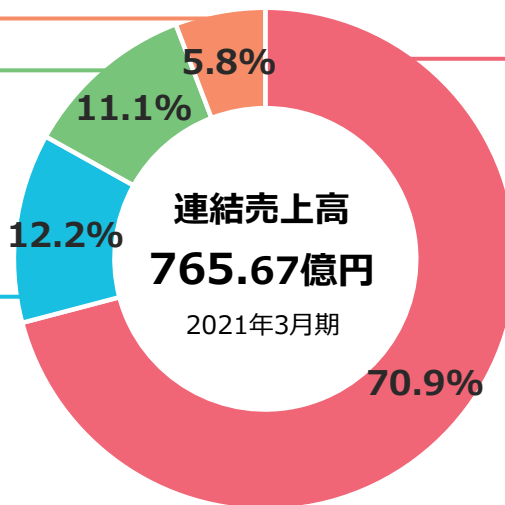
- ・ テレビ共同受信システム
- ・ 非常放送設備
- ・ インターホン設備
- ・ 監視カメラ設備 等



地域別売上高

国内 86.2%

海外 13.8%



連結売上高
765.67億円
2021年3月期

2022年3月期業績予想
連結売上高
797億円

防災事業 83.1%

火災報知設備

- ・ 自動火災報知システム (P型、R型)
- ・ 無線式自動火災報知システム
- ・ 超高感度煙検知システム
- ・ 住宅用火災警報器、等



消火設備

- ・ スプリンクラー設備、泡消火設備、
- ・ 放水銃システム (大、中、小規模)
- ・ トンネル (道路) 非常用設備 等



拠点数

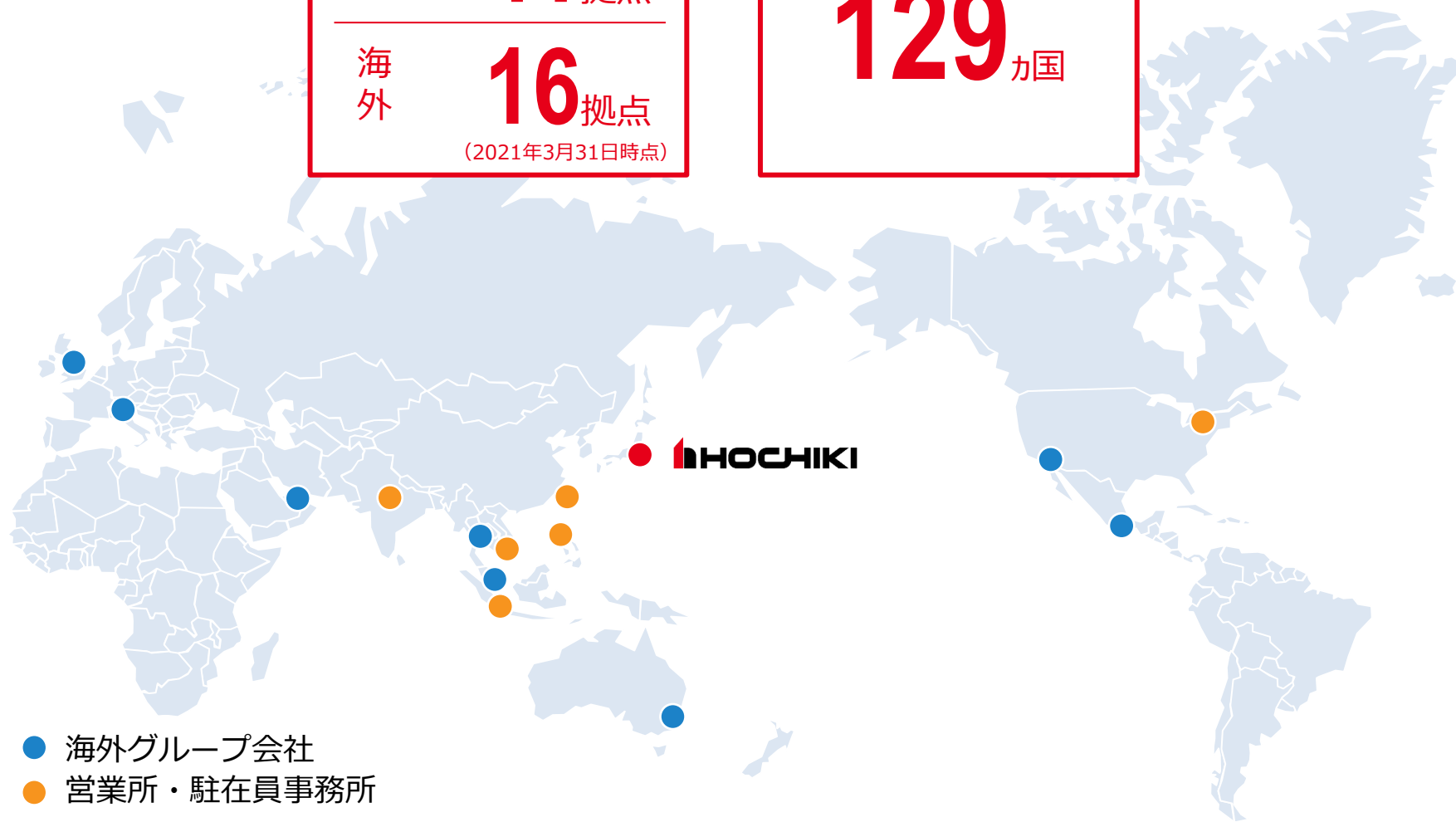
国内 **41** 拠点

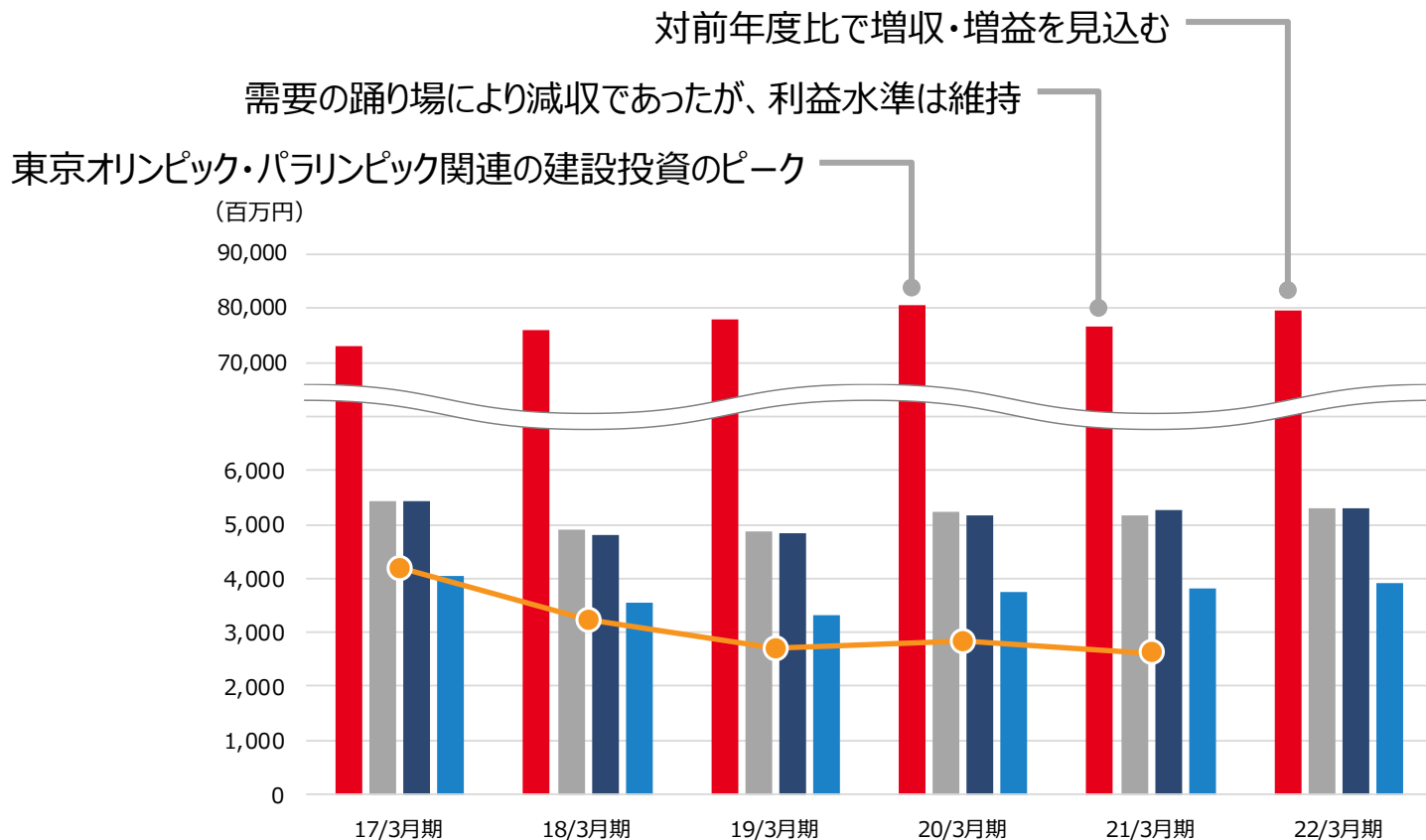
海外 **16** 拠点

(2021年3月31日時点)

納入実績

129 カ国





(百万円)

	17/3月期 実績	18/3月期 実績	19/3月期 実績	20/3月期 実績	21/3月期 実績	22/3月期 予想
■ 売上高	73,118	75,961	77,951	80,551	76,567	79,700
■ 営業利益	5,417	4,911	4,873	5,234	5,180	5,300
■ 経常利益	5,426	4,819	4,845	5,184	5,273	5,300
■ 親会社株主に帰属する 当期純利益	4,049	3,562	3,325	3,737	3,825	3,900
● ROE	16.8%	12.9%	10.8%	11.3%	10.5%	-

品質・技術力が評価され、国内外の建築物に納入

国内



東京スカイツリー
タウン® / 東京都



国会議事堂 / 東京都



パレスホテル東京 /
東京都



寛永寺五重塔 /
東京都



JRセントラル
タワーズ / 愛知県



MFLP堺 / 大阪府

海外



Harpa Conference
& Concert halls /
Iceland



Qatar Financial
Center Tower / Qatar



台北駅 / 台湾



Vincom Ho Chi Minh
/ Vietnam



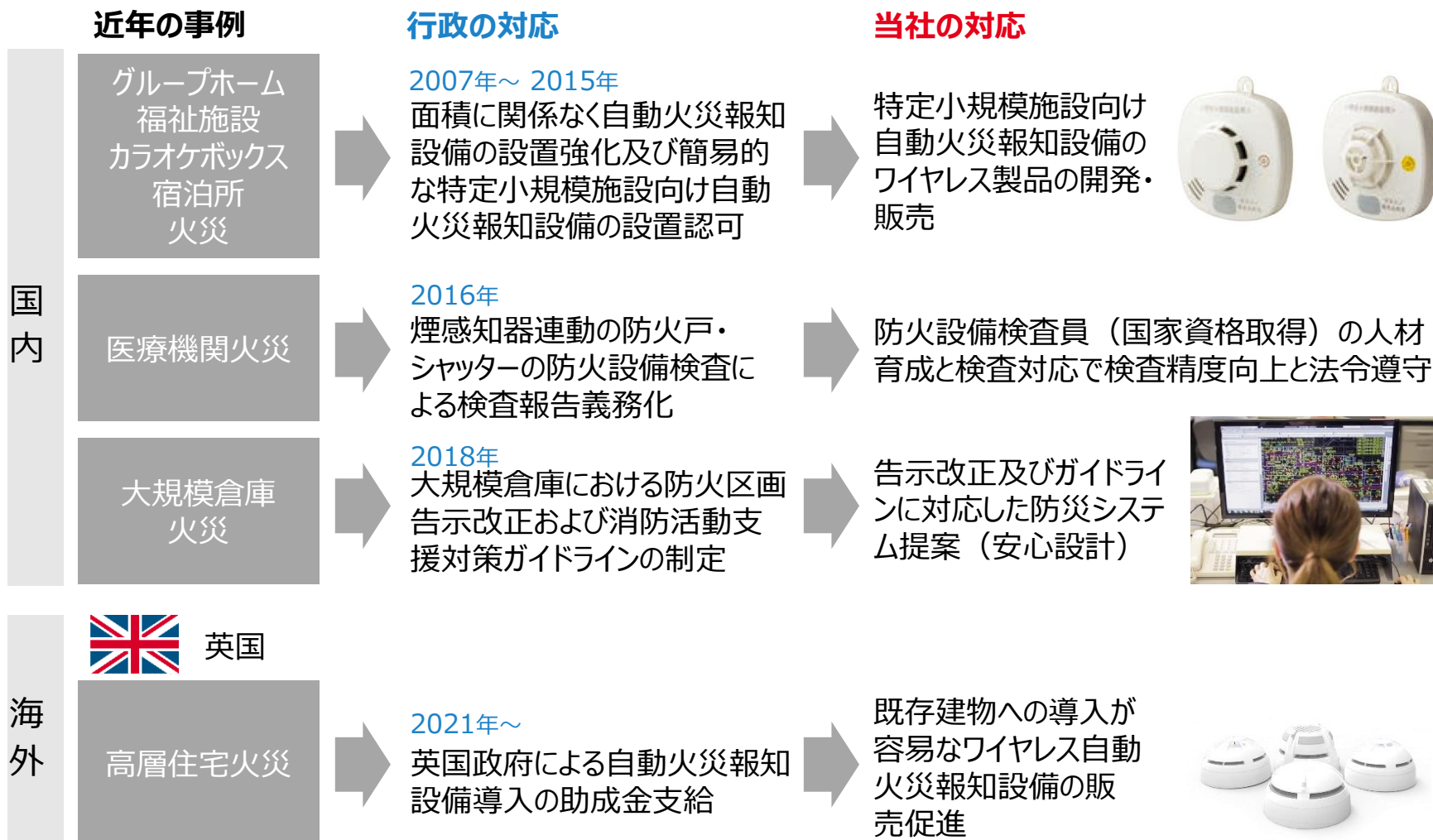
Brisbane Airport /
Australia



Windsor Barra Hotel /
Brazil

HOCHIKIグループを 取り巻く事業環境

複雑・多様化する災害に対し、技術力によって課題解決を提案



世界初

(当社調べ)

放水銃は、スプリンクラー設備が設置できない高天井に対応した消火設備として、1988年に当社が世界で初めて開発・導入（当社調べ）。

独自技術

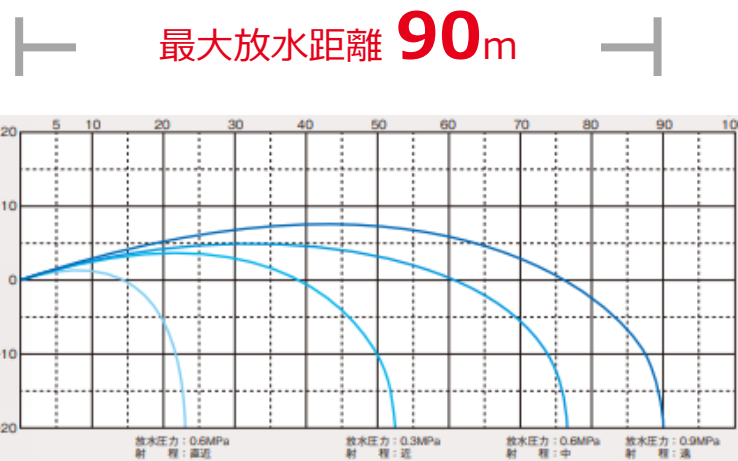
開発にあたっては、遠距離の火源位置の検出、80m以上の放水飛距離等の先端技術を結集し、多くの特許を取得。

国内外
100件以上
の納入実績

ドーム球場やイベント施設などの大型空間建築物、アトリウム空間や体育館などの小・中規模吹き抜け空間などに導入。



総合防災実験場での放水銃デモンストレーション



※物件により異なる場合がございます



大規模放水銃 放水消火実験
(ホーチキ 総合防災実験場、火源約70m)



ユーロスター始発駅セントパンクラス駅

1987年ロンドン地下鉄のキングスクロス駅の大火災後、当社製品の高い品質が評価されロンドン地下鉄に採用。現在もロンドンの鉄道駅舎に高いシェアを有する。

グループ事業基盤

火災を検知するセンシング技術に強み

特許保有件数

1,035件

(国内のみ 2021年3月時点)

研究開発費

27億円

(2021年3月期実績)

売上高研究開発費比率

3.5%

(2021年3月期実績)

煙

ハニカム状（蜂の巣形状）
の煙流入孔を採用



メッシュが0.4mmと非常に細かく、かつ業界最高の効率の良い開口率（79%）の網を採用することにより、湯気・埃・虫などの異物の侵入を低減し、非火災報防止能力を向上。

熱

2020年3月に当社現行品比40%以上コンパクト化させた新製品を発売



高さ

29.5mm

17mm

直径

φ140mm

φ80mm

世界の主要安全規格別に拠点を持つことで、
地域の需要に応じた製品のタイムリーな開発・生産を実現

開発拠点	
国内	2
海外	4

生産拠点	
国内	3
海外	3

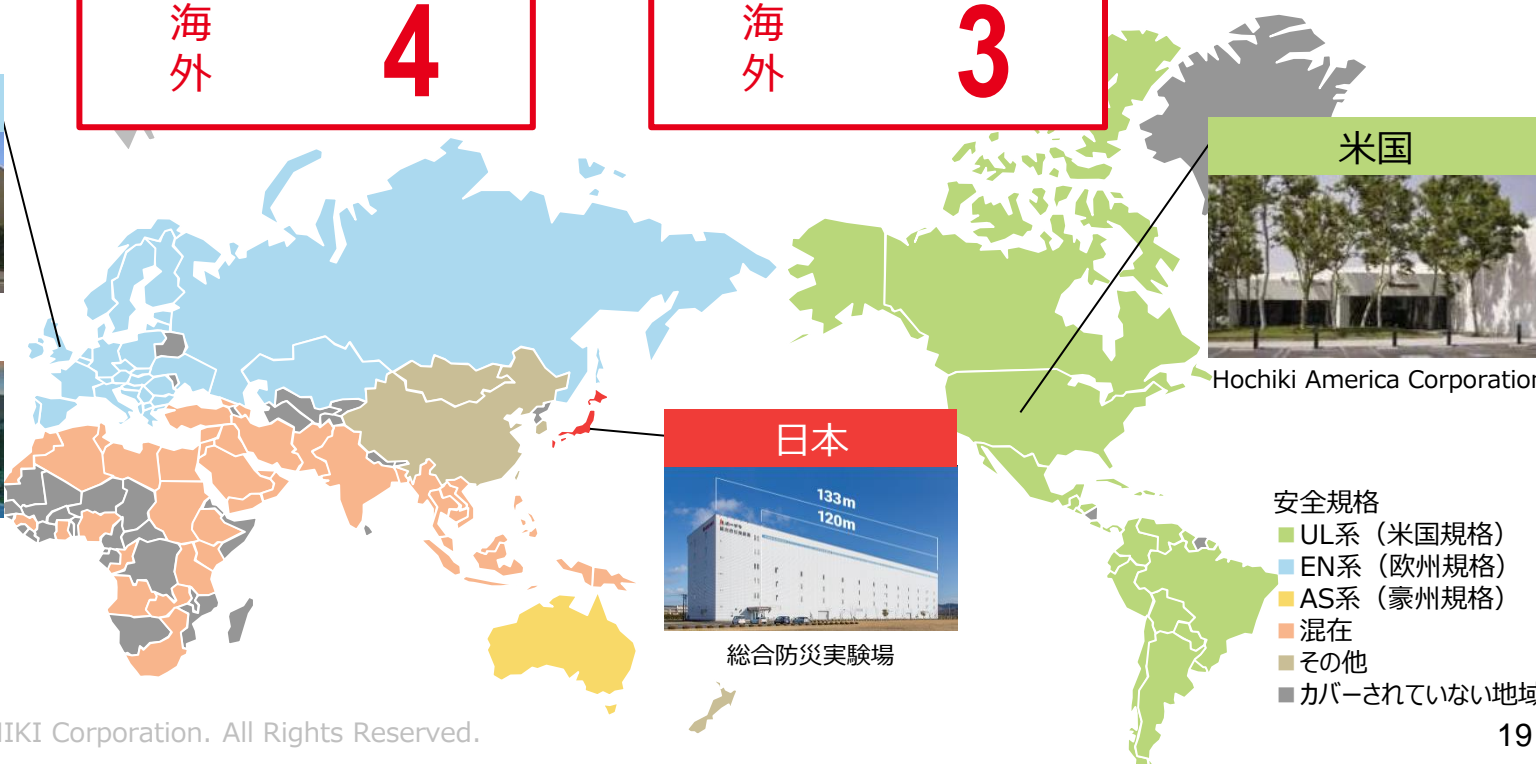


英国

Kentec Electronics



Hochiki Europe (U.K.)



米国

Hochiki America Corporation



日本

総合防災実験場

- 安全規格
- UL系 (米国規格)
 - EN系 (欧州規格)
 - AS系 (豪州規格)
 - 混在
 - その他
 - カバーされていない地域

顧客・現場の課題を解決する高度なエンジニアリング力

自社による施工担当者の育成

消防設備士 2,174名 (延べ人数)

施工マスター 39名

保守マスター 18名 ※2021年3月時点

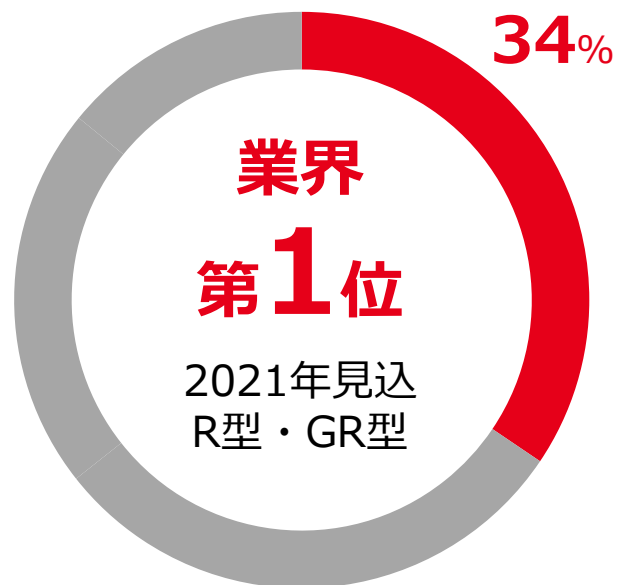


蓄積された専門知識による提案力と
豊富なノウハウに裏打ちされた多様な要望
に応える実行力

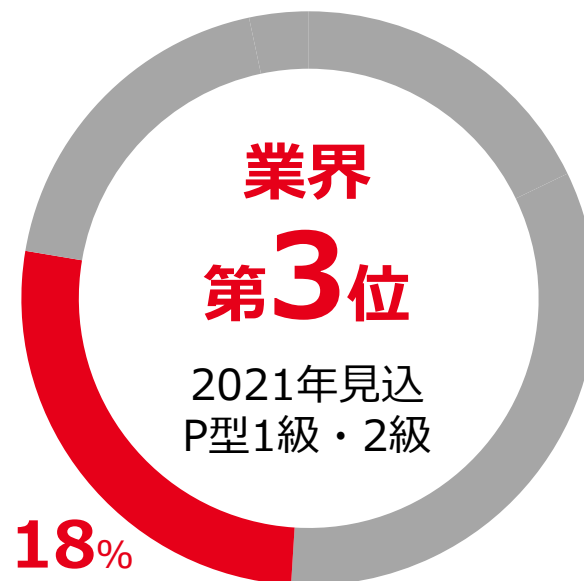
現場から得られる製品のフィードバックに
より、ニーズを捉えた新製品を企画

大規模案件の市場において一定のシェアを有する

大規模市場



小・中規模市場



（数量ベースシェア）

出所：株式会社富士経済「2021セキュリティ関連市場の将来展望」をもとに当社にて作成

グループ成長戦略

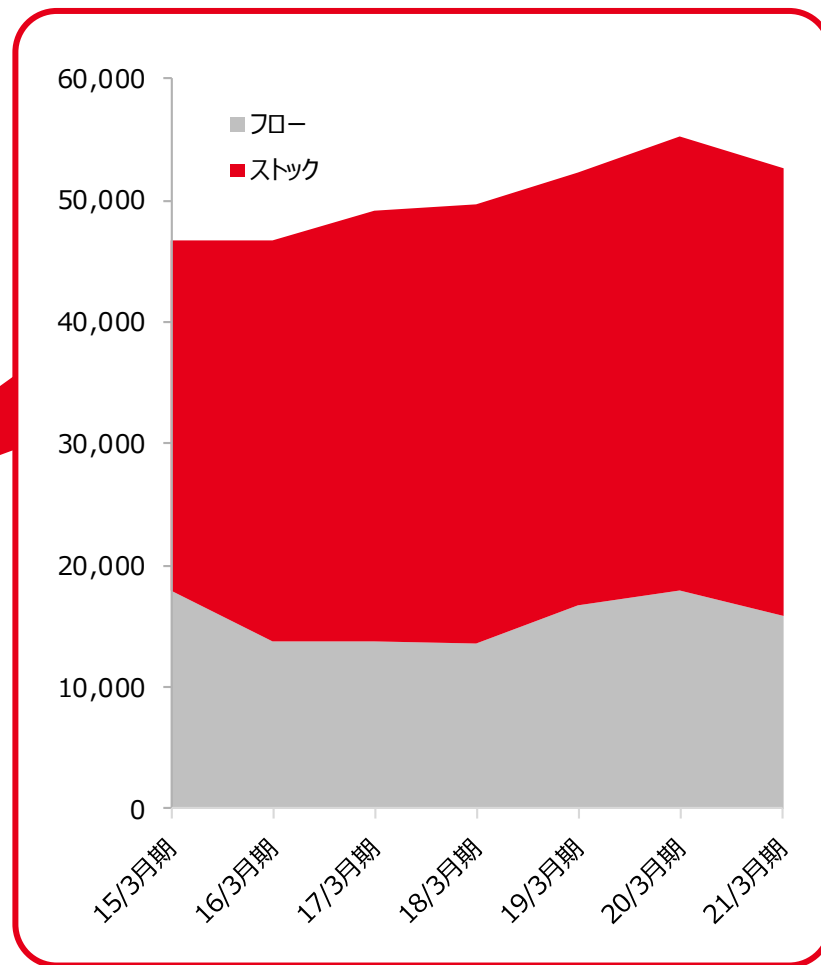
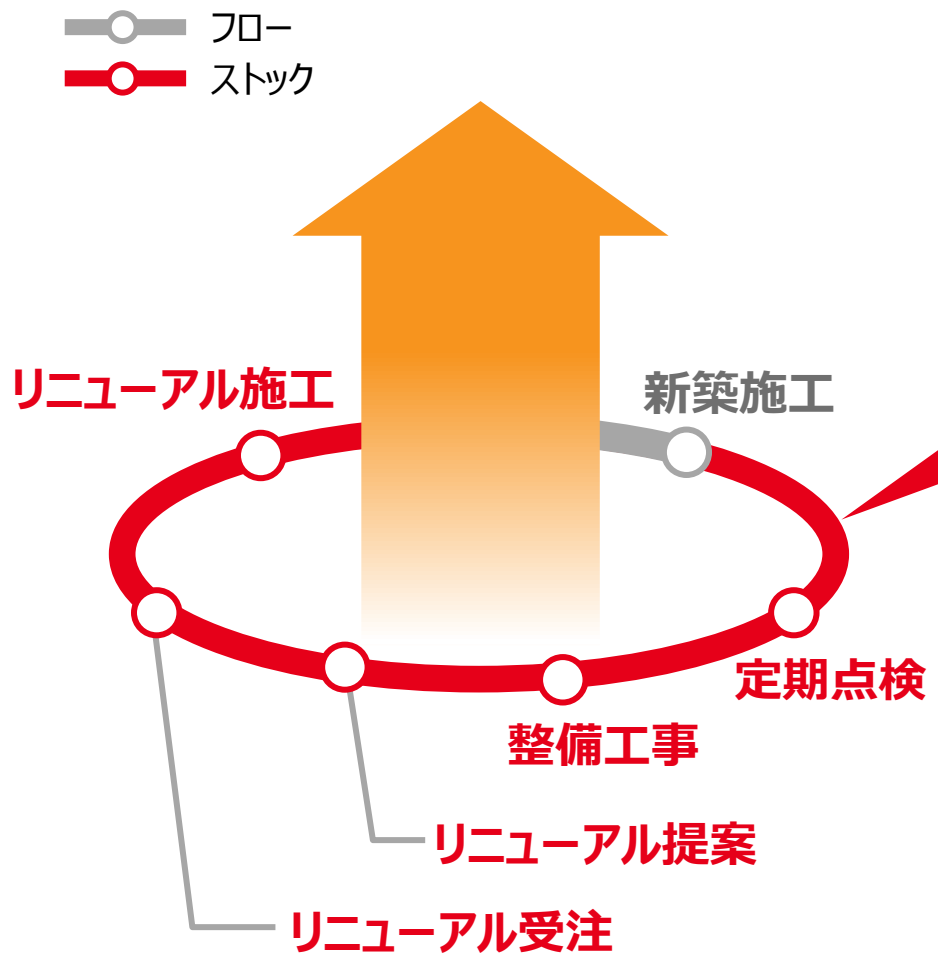
国内

- スtockビジネスから生み出される安定したキャッシュフローの創出に磨きをかけ、将来の成長に投資する
- 既存の事業に留まらず、デジタル技術を活用した付加価値の高いサービスの提供で事業領域の拡大に挑む

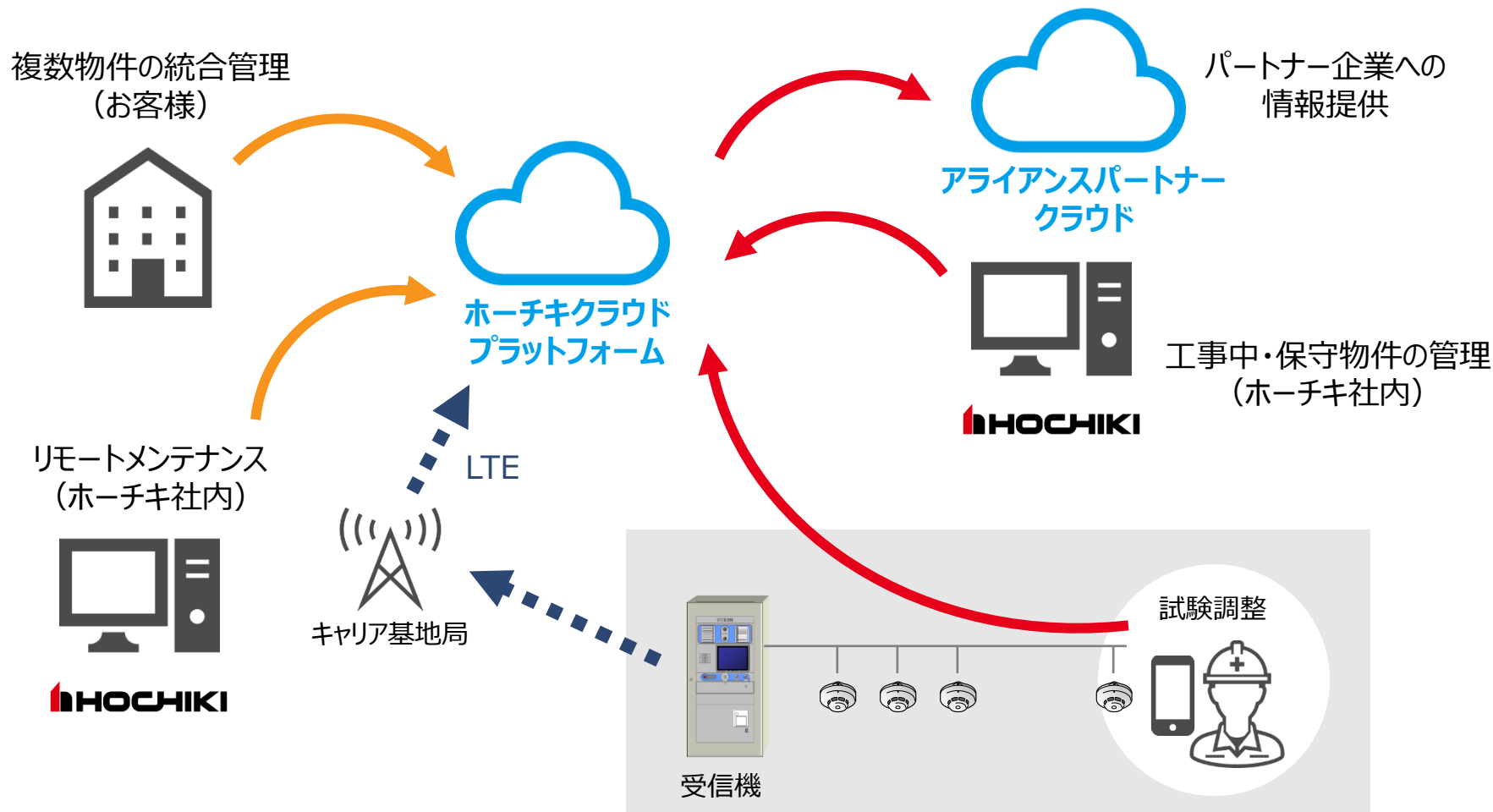
海外

- 戦略パネルの投入により、市場領域と顧客の拡大を図る
- 日本国内のノウハウを活かしたテクニカルサポートの充実より、他社との差別化を図る

ストックビジネスによる安定したキャッシュフロー創出力に磨きをかける



火災受信機が受信した情報をクラウドで管理することによって
データの2次活用による新たな付加価値の提供を検討

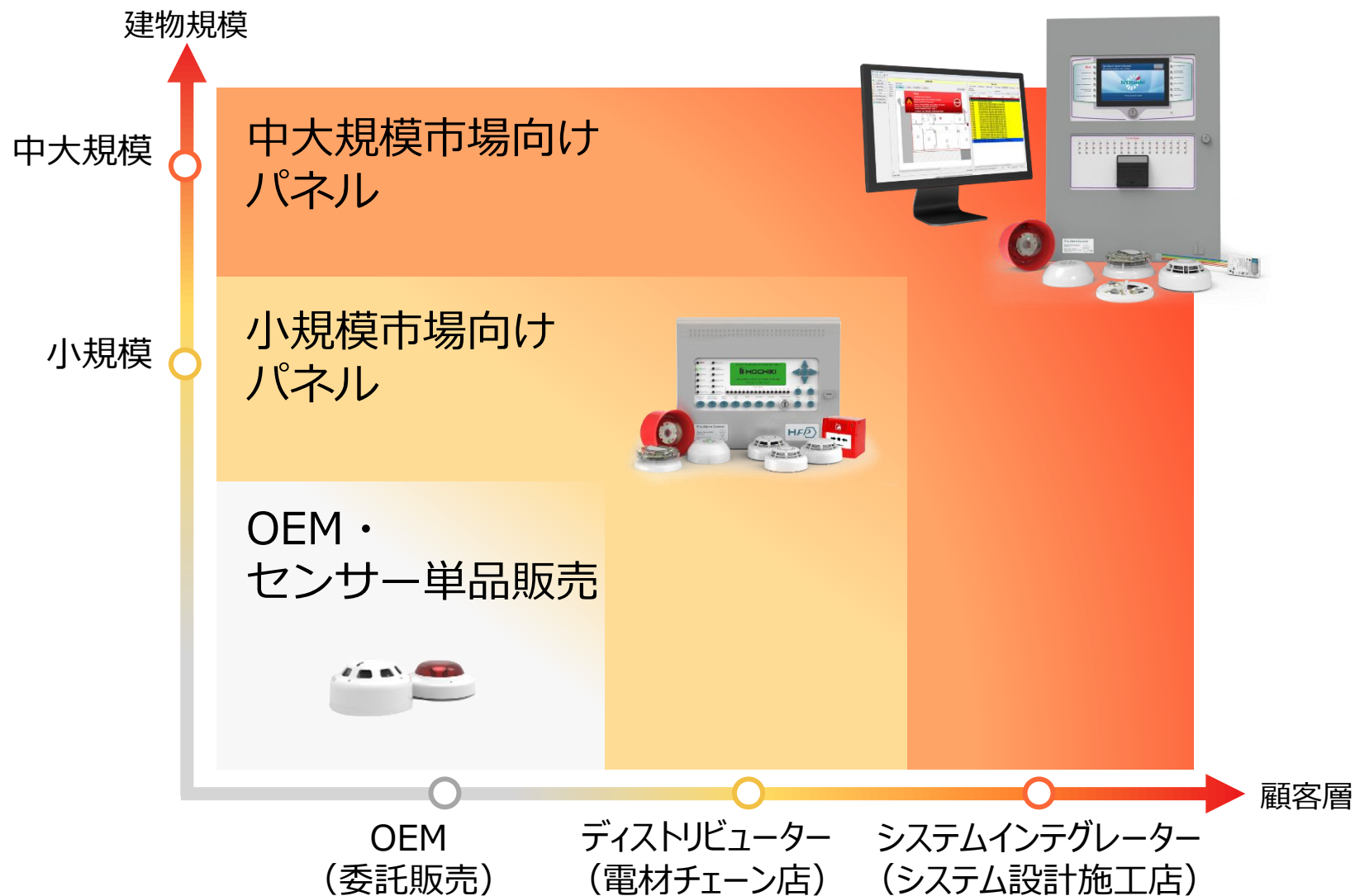


火災受信機からの情報をフィールドボイスインカム※のクラウドシステムに提供することで、火災現場まで駆けつける時間の短縮が可能に



※フィールドボイスインカムは東芝デジタルソリューションズ株式会社のRECAIUS（リカィラス）ブランドの商品です。

戦略パネルの投入により、市場領域を拡大を目指す



顧客接点の量と質を強化することで、顧客との信頼関係を構築

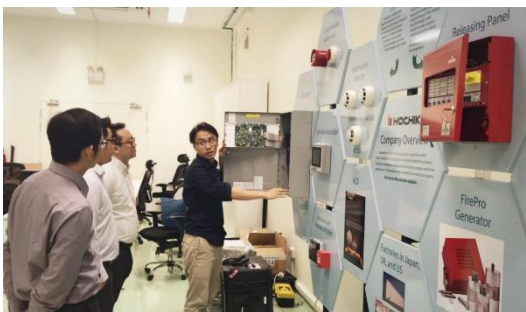
手厚いサポートによる他社との差別化

技術トレーニング

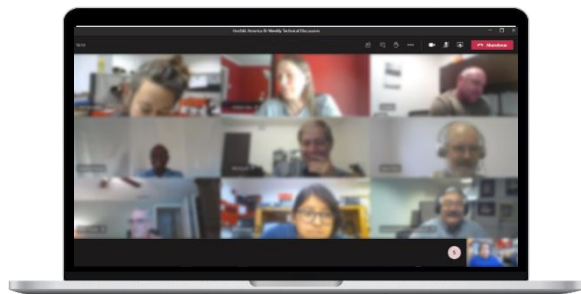
機器販売

アフターサポート

— 現地顧客に現地言葉でトレーニングを実施



— コロナ禍においてはウェビナー形式で実施



— 建物の仕様に合わせて施工調整をサポート



— オフサイトにおいても迅速・丁寧なサポートを実施





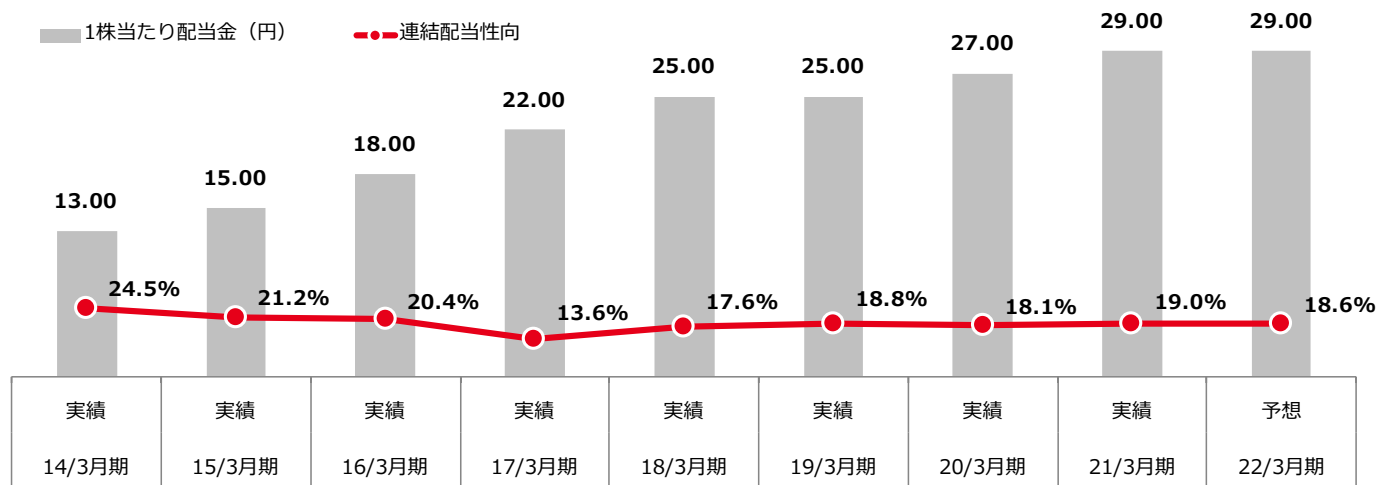
配当方針



- 基本方針

当社グループは株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つと認識し、安定した株主配当の維持を原則としたうえで財務状況や利益水準を総合的に勘案することを基本方針としております。

	14/3月期	15/3月期	16/3月期	17/3月期	18/3月期	19/3月期	20/3月期	21/3月期	22/3月期
	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	予想
1株当たり配当金 (円)	13.00	15.00	18.00	22.00	25.00	25.00	27.00	29.00	29.00
連結配当性向	24.5%	21.2%	20.4%	13.6%	17.6%	18.8%	18.1%	19.0%	18.6%
株主資本配当率(DOE)	1.8%	1.8%	2.0%	2.3%	2.3%	2.0%	2.0%	2.0%	—





創立以来、100年以上の間、防災事業を通して安全・安心な社会づくりに貢献し続けることを使命に歩んできました。

今後も社会のあらゆる課題解決に貢献し、持続的な成長と企業価値向上を目指します。



Appendix



ホーチキ株式会社

HOCHIKI CORPORATION

設 立	1918（大正7）年4月2日
本 社	東京都品川区上大崎二丁目10番43号
資 本 金	37億9,800万円
従 業 員 数	（単体）1,384名 （連結）2,060名
上 場 証 券 取 引 所	東京証券取引所 市場第1部（証券コード：6745）
事 業 内 容	火災報知設備、消火設備、情報通信機器、防犯機器等の製造、販売および施工 ならびに保守管理など

※2021年3月31日現在

用語	内容
感知器 (センサー)	熱や煙で火災を感知し、受信機に信号を送る。
発信機	火災を発見した人がボタンを押して火災を知らせるための装置。 ボタンが押されると受信機に信号が送られ、音響装置（ベルなど）が鳴動する。
受信機 (パネル)	感知器や発信機からの信号を受信し表示するとともに、建物内に警報を発する。防災センターや警備室などに設置されている。
R型受信機	Rは「Record」の略。 火災信号、火災表示信号もしくは、火災情報信号を固有の信号として、または設備作動信号を共通もしくは固有の信号として受信し、火災の発生を防火対象物の関係者に報知する。 一般的に中・大規模の建物に設置される。
P型受信機	Pは「Proprietary」の略。 火災信号もしくは、火災表示信号を共通の信号として、または設備作動信号を共通もしくは固有の信号として受信し、火災の発生を防火対象物の関係者に報知する。
UL（米国）規格	アメリカに本拠を置く試験・検査認証を行う企業が定めた規格。
EN（欧州）規格	EU（ヨーロッパ連合）域内における統一規格。
AS（豪州）規格	オーストラリア規格協会が管理している規格。

魅力あるグローバルブランドへの挑戦 ～個々の意識を変え、組織の行動を変える～

ビジョン実現に向けた戦略投資の実施

事業維持
のための投資

事業成長
のための投資

将来の競争力確保
のための投資

持続的な成長
のための投資

競争優位性の高いビジネスモデルの追求

- ・国内事業：効率的なお客様循環サイクルによる収益基盤の強化
- ・海外事業：戦略パネルを核としたシステム販売の拡張

持続的な成長を支えるモノづくり基盤の強化

- ・グローバルサプライチェーン・生産体制の整備
- ・開発・生産技術の強化

重点戦略
方針

環境変化に適応した経営改革で 将来の競争優位性を高める

- ・多様性を強みに変える人材育成
- ・DX展開による新たな価値創造
- ・経営理念の具現化に向けたESG経営の推進

収益性向上による投資資金の創出

負荷平準化、固定費削減による費用構造の見直し

VISION2023では、「将来への戦略投資」を確実に実行し、「経営体質改善」と「財務基盤強化」により、「営業利益率」の改善を目指し、「ROE」を維持します。

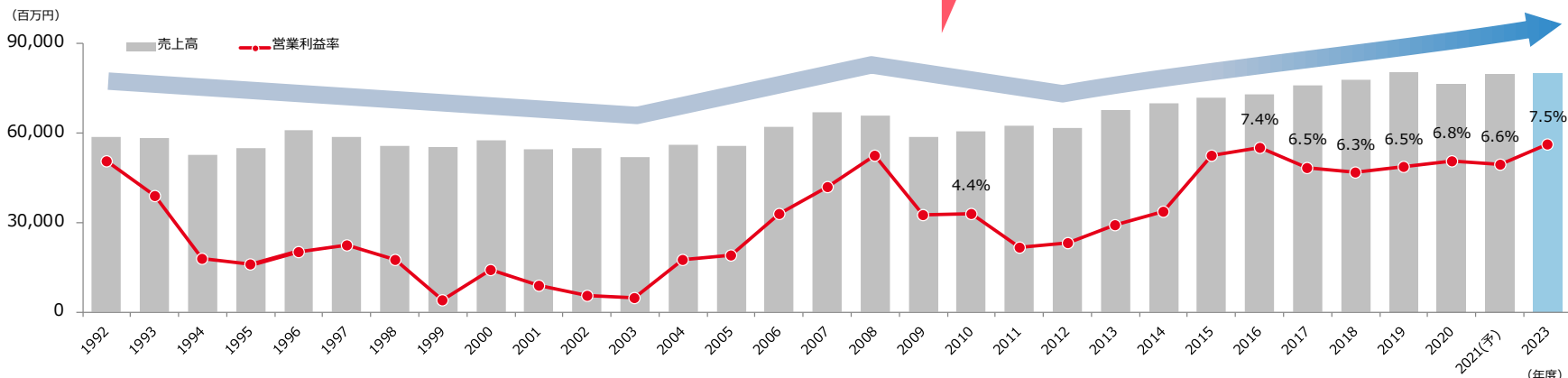
2020年度（実績）

売上高	765.6億円
営業利益	51.8億円
営業利益率	6.8%
ROE	10.5%
設備投資額	40.5億円
研究開発費	79.7億円
<small>設備投資・研究開発費は3か年累計</small>	
為替レート	
円/米ドル	106.10円
円/GBP	138.74円



2023年度（計画）

売上高	803.0億円
営業利益	60.0億円
営業利益率	7.5%
ROE	10.0%以上
設備投資額	60.0億円
研究開発費	90.0億円
<small>設備投資・研究開発費は3か年累計</small>	
想定為替レート	
円/米ドル	105.00円
円/GBP	135.00円



本資料には将来予測に関する記述が含まれております。

将来予測に関する記述にはその他の情報とあわせて、当社グループの将来の成長計画が含まれております。この将来予測は当社が現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、将来の出来事に関する現在の当社の見通し、期待、計画が記述されているに過ぎません。我々はこの将来予測について、新たな結果に関する情報や将来の出来事によっても、最新情報への更新や修正の義務を負うものではありません。

また、本資料中で論じられる予測の対象となる将来の出来事は、現実には起こらないか或いは予期されたことと大きく異なる可能性があり、これらの違いには多くの要素が原因となりえます。

本資料において使用されている商標は、関係各社の保有する登録商標又は出願商標です。

お問い合わせ先

ホーチキ株式会社 経営企画室
石井

TEL 03 (3444) 4115

E-mail team_ir@hochiki.co.jp